

2020年度事業報告  
(2020年4月1日～2021年3月31日)

## Ⅰ 事業概況

2020年度、日本経済は新型コロナウイルス禍により大きく混乱致しました。日本溶接技術センター（以下、当センター）も緊急事態宣言による休業要請を受けて、4月・5月と2ヶ月間休業致しました。この間、各方面から再開時期などに関する多くの問合せがあり、改めて当センターが社会的に重要な役割を担っていることを認識させられました。6月からの業務再開に当たっては感染防止第一、特に3つの密の回避を最優先したことから、活動水準は例年の7割程度にとどまり、損益的に極めて厳しい一年でした。

表Ⅰ-1に当センター事業の財務数値の推移を示します。2020年度の経常収益は休業などの影響が大きく昨年度比78%、経常増減は5年ぶりの赤字を余儀なくされました。

専門学校事業の収益は昨年度比116%です。6月に授業を再開し、夏季・冬季休暇を大幅に短縮することで例年と同じ教育課程を終了できました。2年次学生6名・1年次学生19名の在校生25名でスタートし、残念なことに2名の退学者を出しましたが、資格取得・就職活動に関してはよい結果が得られています。なお、2021年度新入生は18名の予定です。

教育訓練事業の収益は昨年度比80%です。業務再開後も、各種資格取得試験の延期・中止、受講者の人数制限・受講取消などの厳しい状況が続きました。そうした中、溶接分野でAWS/CWI取得講習会、非破壊検査分野で再認証試験対策講習会などの継続実施、とりわけ、日本溶接協会と協力した厚生労働省「中小企業等担い手育成支援事業」の関東・九州地区開催、新しく、厚生労働省「就職氷河期世代の方むけの就職支援事業」の関東地区開催など、多岐にわたる活動を展開し収益増加に努めました。

試験検査事業の収益は昨年度比53%です。建築鉄骨市場の冷え込みなどを背景に、一般の金属材料試験は案件・規模とも大幅に減少、大手依頼元であるAW検定評価試験も対象者が新規受験者のみなるなど、新型コロナウイルス禍をもっとも大きく受けました。好調な事業運営を続けていただけにセンター全体の損益に著しい影響が生じました。

設備投資に関しましては、損益面への影響が危惧されたものの、ここ数年来の台風被害の修理と今後の対策を重要視して、外壁の防水措置や電源室の損傷などの大規模修繕を行いました。2021年度も厳しくかつ不透明な事業環境が続くと思われます。黒字化達成に向けてあらゆる施策を強力に推進してまいります。関係する皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

表Ⅰ-1 事業活動に関する財務数値の推移

単位：千円

項目	H27年	H28年	H29年	H30年	2019年	2020年
経常収益	268,228	277,990	275,597	279,914	261,570	204,948
経常増減	△5,024	9,791	9,499	10,808	6,151	△20,263
正味財産	379,288	386,971	393,819	401,387	404,840	382,080

## II. 2020年度事業の活動報告

### 1. 専門学校事業（継続事業－1）

2020年度は2019年度に引き続き、各学科の特色を出すカリキュラムの見直しを図りました。とくに、学校運営に関しては、2年次は鉄骨生産工学科のみで運営することとしました。

表II-1に昨年度と比較し、本年度の在校生人員構成を示します。本年度は、期初に25名でスタートしましたが、途中退学者が2名出ています。出席数、授業態度に問題のある学生に対し、保護者面談などにより授業態度の改善指導を行いました。結果的に専門士としての卒業（2年制）は3名、1年制で卒業（就職）が6名、進級15名となりました。

表II-1 在校生の人員構成（年度開始時）

学科名称	2020年度	2019年度
溶接・検査技術科（1年制）	7	5
設備・構造安全工学科（1年次）	3	1
設備・構造安全工学科（2年次）	0	5
鉄骨生産工学科（1年次）	9 <1>'(1)	7 休学2
鉄骨生産工学科（2年次）	6 <1>'(1)	4
合計	25	22

注) <> 退学 () 聴講生

年間行事活動：（入学式・卒業式を除く）

- (1) 7月28日 学外授業（岸本建設工業 平塚）鉄骨2年
- (2) 8月21日 1,2年生交流会
- (3) 8月27日 現場見学（日本ファブテック 熊谷工場）鉄骨2年

\* 学校見学会（オープンキャンパス／8月3日～8月7日）

7月10日、9月4日、10月9日、11月6日、12月18日  
1月8日、2月5日

\* 入学試験 11月13日、12月11日、1月15日、2月19日、3月5日

\* web入学試験 1月29日、2月5日、2月26日

\* 学校運営会議・カリキュラム審議会

8月17日、10月21日、2月19日

就職状況：

就職対象者数：9名、進路内定者：9名

実家等（旧職場復帰を含む）：9名

その他：

特記なし

## 2. 中長期的視点に立った教育・訓練事業（継続事業－2）

溶接技術、非破壊検査技術共に、将来を展望した活動に重点を置き、技術相談の受託、講習会の企画推進を実施しました。また、以前から取り組んできている高校生を対象にした「溶接」および「非破壊検査」教育についても関連団体と協力し重点的に取り組むことができました。

自動車車体補修溶接に携わる技術者の基礎知識取得を目的とした「車体整備における溶接の基礎研修会」は2020年度も開催することができませんでした。今後は関連協会と協力して自動車補修時に必要となるプラグ溶接の技術講習会の立上げを予定しており、今年度はそのための試験データの採取を行いました。

なお、本事業の目的は、溶接技術、非破壊検査技術や材料技術に関して、関係業界を支援していくことにあり、溶接・非破壊検査技術の普及と、若手技術者の育成を含めて継続実施していくことが必要であると考えています。

表Ⅱ－2 溶接技術者／検査技術者の育成普及活動（参加者数）

各種講習活動	2020年度	2019年度
抵抗溶接実務教育講習（2日）川崎1回	6	38
工業高校のための非破壊検査研修会	39	86

### 技術支援活動

#### 企業・団体の技術指導

- (1) N車体協：プラグ溶接条件
- (2) NO社：溶接欠陥原因
- (3) SR社：溶接部空気漏れ原因調査
- (4) SM社：消毒台溶接不良原因調査
- (5) A工業：SCC原因
- (6) NG社：柱梁接合部組織変化

### 委員会活動：

#### 関連団体の委員会活動に参加・協力

- (1) J W E S：
  - J-ANB認証・試験、管理委員会
  - IWIP検査技術者WG
  - WO教育委員会（学科講習会、CS事業WG）
  - WCD溶接材料部会技術委員会
  - CIW講習会
- (2) 中災防アーク安全特別教育テキスト改訂委員会
- (3) H P I：編集委員会、科学技術賞選考委員会

教育・訓練活動その他：

関連団体の活動に参加・協力

- (1) 建災防：アーク特別安全教育講師養成講座（8/18）
- (2) 全基連：基礎杭溶接管理講習会講師  
（6/7-8、7/11、10/3、11/28、2/27、3/20）
- (3) CIW：「明日を担う次世代のための非破壊検査セミナー」（9/30）

### 3. 現状に対応した教育・訓練事業（他事業－1）

本事業はセンターの経営の根幹であり、溶接技術および非破壊検査技術に関する教育・訓練活動です。以下に、それぞれの取り組み概要をまとめて報告します。

#### ① 資格・認証取得に関する事前準備講習

国内における各種技術資格・認証の受験対策講習会は4-5月は中止とし、6月以降は開催しました。

各資格・認証毎の受講者数を表Ⅱ－3（1）～（4）に示します。

溶接管理技術者資格の講習会は後期のみ開催しましたが、直前講習会の受講者が大きく減少しました（表Ⅱ－3（1））。

鉄骨製作管理技術者講習も大きく減少しました（表Ⅱ－3（2））。

また、非破壊検査技術者認証のための講習会の受講者は基礎、一次講習会は大きくは減少しませんでした。二次講習会、再認証試験のための対策講習会への参加者は大きく減少しました（表Ⅱ－3（3））。

溶接技能検定受験前教育の受講者（厚労省事業-溶接協会委託事業を含む）は大きく減少しました（表Ⅱ－3（4））。

表Ⅱ－3（1） 溶接管理技術者認証（溶接技術教育）（秋）（受講人数）

名 称	2020年度	2019年度
事前集中講座 WES1級（4日間）	23	33
WES2級（3日間）	55	48
直前演習講座 WES1級（2日間）	7	34
WES2級（2日間）	12	22
合 計	97	137

表Ⅱ－3（2） 鉄骨製作管理技術者認証（鉄骨溶接技術教育）（受講人数）

名 称	2020年度	2019年度
事前対策講座 1級	17	30
事前対策講座 2級	6	7
合 計	23	37

表Ⅱ－3（3） 非破壊検査技術者認証（非破壊検査技術教育） (受講人数)

区 分	名 称	2020年度	2019年度
基礎入門講座 (実技+座学) 夏季(7月)	超音波探傷入門・基礎	12	18
	浸透探傷基礎講座	24	20
	磁粉探傷基礎講座	0	0
	小 計	36	38
一次対策講座 (座学) 秋季(8月)	超音波探傷試験(レベル1,2)	31	43
	放射線透過試験(レベル1,2)	0	10
	浸透探傷試験講座(レベル1,2)	17	11
	磁気探傷試験講座(レベル1,2)	22	15
	材料科学講座	6	6
小 計	76	85	
二次対策講座 (実技) 春季(5月)	超音波探傷試験(レベル1,2,3)	59	131
	放射線透過試験(レベル1,2,3)	17	29
	浸透探傷試験講座(レベル1,2,3)	57	74
	磁気探傷試験講座(レベル1,2,3)	38	41
	小 計	171	275
再認証試験 対策講座 (実技) 春季(5月)	超音波探傷試験(レベル1,2,3)	27	99
	放射線透過試験(レベル1,2,3)	12	44
	浸透探傷試験講座(レベル1,2,3)	32	76
	磁気探傷試験講座(レベル1,2,3)	23	33
	小 計	94	252
合 計		377	650

表Ⅱ－3（4） 各種溶接技能訓練受講者数 (人、人・回)

区 分	名 称	2020年度	2019年度
個人(企業) からの研修受託	短期教育：一、二週間コース	8	13
	長期研修：一ヶ月コース	4	5
	三ヶ月以上	0	0
計		12	18
検定試験対策 各種技能訓練 (1日換算)	被覆アーク溶接訓練指導 〈TIG、組合せ、その他〉	20	127
	半自動アーク溶接訓練指導 (うちJWES CS,SH事業分)	196 (177)	263 (240)
	ろう付技能訓練指導	46	54
	ステンレス鋼溶接訓練指導	103	180
	アルミニウム溶接訓練指導	16	23
	軽溶協/ペンツ方式 教育指導	26	33
	計	407	680

② 国際化対応教育

国際教育関連のAWS-CWI事業、GE検査員講習会を例年通り実施しました。

AWS-CWI資格取得支援につきましては、表Ⅱ－４（１）に示すように、今年度は若干減少しました。今年度よりAWSはCBT（Computer Based Test）を実施していますが、PartA,B,Cの3partのうちPartBのみはAgentで受験することを義務付けており、受験者にはこれまでと同様の要領で講習会、PartB試験を継続していくことになりました。

GE社指定の教育訓練は3年目の更新の年で受講者数は少ないものの、昨年よりも若干増加しました。（表Ⅱ－４（２））。

表Ⅱ－４（１） AWS-CWI資格試験の教育活動 受験・受講人数 (人)

名 称	2020年度	2019年度
資格試験の受験者		
新規受験者	9	16
再受験者	6	1
9-yr更新受験者	8	10
試験準備講習会（7日間）		
全パート受講	13	18
一部受講（再試験）	0	0
一部受講（9-yr）	6	11
受験結果		
CWI合格	14	13
受験者数	23	30

表Ⅱ－４（２） GE航空部門溶接検査員資格取得講座 受講人数 (人)

名 称	2020年度	2019年度
目視検査員コース	9	5
指導員資格コース	2	1
合 計	11	6

### ③ 溶接技術と検査技術の融合教育

企業または団体単位での社員（職員）の技術研修の要請に対しては、ここ数年、リピータ（顧客）を確保しています（表Ⅱ－5参照）。いずれも溶接と検査の内容を含む形の研修を主としており、期間に余裕がある場合には自分で溶接した試験体を各人が自分で探傷する研修内容を取り入れております。

表Ⅱ－5 企業・団体の社員教育（溶接・検査融合教育） (人)

名 称	2020年度	2019年度
千代田工商 新入社員 溶接・検査 基礎講習(5日)	50	42
発電技検 (5日)	2	1
千代田化工建設 新入社員溶接・非破壊実習 (2.5日)	14	19
瀧上工業 新入社員 溶接・検査 基礎講習(5日)	12	10
KH	4	9
日本ボイラ協会 非破壊実習 (4日)	0	9
NS テックスエンジ 溶接・検査 基礎講習(2日)	9	12

### ④ 安全衛生教育

ガス溶接技能講習、アーク、自由研削砥石の安全講習、いずれの講習も2020年度は減少しました。

また、昨年度より開始したベトナム人実習生らに対するアーク溶接特別教育とガス溶接技能講習（ベトナム語通訳付き講習、翻訳テキスト、翻訳筆記試験。）を継続し、27人が受講者しました。

表Ⅱ－6 安全各種溶接技能訓練受講者数 (延べ人数／開催回数)

名 称	2020年度	2019年度
アーク溶接特別講習	193 / 10	409 / 20
ガス溶接技能講習	363 / 26	508 / 35
粉じん特別教育	0 / 0	25 / 1
振動工具特別教育	18 / 1	13 / 1
自由研削砥石	45 / 5	116 / 5

### ⑤ その他

日本溶接協会の鋼検定、軽金属溶接協会のアルミ検定、日本非破壊検査工業会の要員認証事業に対し、施設提供に加えて実務的な立場から協力しました。表Ⅱ－7に活動結果を示します。

表Ⅱ－７ 溶接技能認証（検定）の支援活動 (延べ人数)

名称	2020年度	2019年度
軟鋼の被覆アーク溶接（組合せ、ガスを含む）	818	702
ステンレス鋼の溶接	527	777
炭酸ガス半自動アーク溶接	996	854
ろう付け	215	255
アルミニウムの溶接	26	622
チタンの溶接	24	93
計	2,606	3,303

⑥ 教育訓練用試験体の普及活動

非破壊検査技術に関する各種教育用試験体（PT用および外観検査用）を開発し普及に努めています。

表Ⅱ－８ 教育訓練用試験体の普及推進 (個数)

名 称	2020年度	2019年度
欠陥入りPT試験体作成		
PT1	1	16
PT2	64	32
エルボ型	9	26
TSC型	5	20
TSCW型	2	28
溶接平板	0	0

その他活動・技術指導等：

- ・溶接技能認証支援（日本溶接協会、軽金属溶接協会、日本ボイラ協会の検定業務）  
溶接技能検定基本級受験者向け学科講習会に協力  
(ステンレス、被覆アーク溶接、半自動溶接)
- ・溶接技能コンクールなどの支援活動
- ・ベトナム人研修生受け入れ支援体制の検討  
技能実習生受け入れ団体と協力体制を検討 ⇒ 計画延期
- ・JWES-C S（中小企業等担い手育成支援事業）活動中  
半自動溶接SA-2Fを取得、SA-3F,H、SA-2V,Hの受験教育  
関東地区：2018～2020年度（5期）：2020年度は第4期、第5期（本年度で終了）  
九州地区：2019～2021年度（5期）：2020年度は第2期（宮崎）、第3期（熊本）
- ・JWES-S H（厚生労働省「就職氷河期世代の方向けの就職支援事業」）に協力  
被覆アーク（A-2F）もしくは半自動溶接（SA-2F）を取得、TN-1F、SA-3F・H、SA-2V,Hの受験教育  
全国：2020～2022年度（2020年度は宮崎、北海道、川崎で開始）

#### 4. 試験・検査事業（他事業－2）

2020年度はAW検定試験の委託業務において、更新試験が延期となり大幅に試験数が減少した。また、一般の受託試験数も減少しました。

表Ⅱ－9 試験検査事業

件数

区 分	名 称	2020年度	2019年度
1	金属材料 受託試験検査	384	474
2	技術相談	6	0
3	AW検定試験	57	152
4	外部出張	1	0
計		448	626

建築分野	:	4 社	1%
橋梁分野	:	26 社	7%
容器・配管分野	:	116 社	30%
材料分野	:	158 社	41%
ｽﾀｯﾄﾞ 溶接／土木	:	26 社	7%
その他	:	52 社	14%

#### 5. 施設・設備貸与事業（他事業－3）

神奈川県溶接協会	12日
軽金属溶接協会	19日
日本非破壊検査工業会	2日
日本エルピーガスプラント協会	13日

#### 6. その他

##### 1) 展示会等への参加（PR活動）

2020年度はこれまで参加してPR活動を行ってきた国際ウェルディングショー、全構協青年部全国大会、進路フェスタinかながわ、関東甲信越高校生溶接コンクールなど、殆どのイベントが中止になりました。

##### 2) 施設維持・保全

屋外喫煙室工事（5階）	890	千円
水道周り工事	160	千円
防水工事（屋上・壁面）	11,500	千円
切断機（1階）	560	千円
PC（2階・4階）	368	千円
ブラックライト（2階）	500	千円
計	13,978	千円

### 3) 賛助会員

1社（株式会社ヤシマ）が退会し38社となりました

### 4) 人事関連

職員が1人退職しました。

## III 会務報告

### 1. 監事会

日時 2020年5月18日 13時～15時

議案 (1) 2019年度事業活動および決算内容の監査

### 2. 理事会

#### 2. 1 第25回理事会（書類審議）

日時 2020年6月11日

議案 (1) 2019年度事業報告書の審議  
(2) 2019年度収支決算報告書の審議  
(3) 公益目的支出計画実施報告について

#### 2. 2 第26回理事会（書類審議）

日時 2020年12月1日

議案 (1) 2020年度上半期事業活動経過報告  
(2) 2020年度上半期会計報告

#### 2. 3 第27回理事会

日時 2021年3月30日 13時～15時

議案 (1) 2021年度事業方針・事業計画の審議  
(2) 2021年度予算案の審議

### 3. 評議員会

#### 3. 1 第15回評議員会（書類審議）

日時 2020年6月30日

議案 (1) 2019年度事業報告書の承認について  
(2) 2019年度収支決算報告書の承認について